

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム やすらぎ苑古川
(ユニット名)	りんどう
所在地 (県・市町村名)	宮城県大崎市古川小野字一ノ坪43-100
記入者名 (管理者)	曾根 初恵
記入日	平成 20年 10月 25日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念があり、地域密着型サービスの意義を全員で理解し取り組んでいる。	個々が地域で暮らしやすくをモットーにしていきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送りの時に、職員全員が再確認できる様に唱和をしている。	理念の共有を図り意識しながら日頃の支援に繋げていく。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念の浸透はこれからの課題になると思います。	○ 運営推進会議や家族会総会などで説明をし浸透できる様に取り組む。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の方々とおすそ分けしたりする間柄が作られており、事業所にお茶飲みに来て下さったり、回覧板も回って来ており近隣に住まわれる人達と触れ合う機会が多い。	行事(夏祭り、敬老会等)にも近隣の方々に参加して下さい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域活動には積極的に参加しており、防災訓練、町内清掃、会食会等に参加し交流を図っている。	今後も継続し地域の活動に参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実習生の受け入れを積極的に行い人材育成をしている。		今後も依頼があれば受け入れをしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を全員に伝え、全職員で自己評価に取り組み、要改善のところは具体案の検討を行いサービスの向上に努めている。		利用者を自分に置き換え、考察する事が一番分かり易いのではという考えからグループホームのあり方を施行している。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の構成員の意見をを取り入れ苑内の行事等への地域の議員の方にも参加して頂き苑の現状を見て頂いている。		今後も定期的な開催を行い、当苑のサービス向上につなげていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に安心介護の相談員の方が来苑されている。また、市役所に行った際には窓口や電話などで事業所の実情や、ケアサービスの取り組みを伝え、更に密に連携を取れるようにしていきたい。		出来るだけ多く市役所担当者と会う努力をしている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修に参加して理解を深めるよう努力をしている。		これからも研修会に参加して勉強していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などに参加し学習している。当苑においては虐待はない。		今後も研修に参加し、学習する機会を設けたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取って丁寧に説明している。利用者の立場に立って将来の事を含めて疑問などを引き出しそれに対して説明をしている。	入居時、退去時の契約については十分な話し合いの上、入苑頂いている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入苑時の契約の際にご意見、不満、苦情は有り難く頂戴する旨伝えている。また常に苦情など話せる雰囲気作りを心掛けています。意見箱も設置している。	不満、苦情があればその都度話し合いを行っていく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや、健康状態を個別に記入し送付している。その際個人の金銭出納帳も出しており、一目でわかるようになっており家族による定期的な確認をして頂いている。	核家族とは連絡をとり、利用者の日々の生活状況を報告している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族がホームに来苑した時や行事の参加の度に会話を持ちながら意見を引き出す様に心掛けている。利用者の生活ぶりの疑問や設備面での要求には出来ることから速やかに対応している。	面会時や電話連絡時は意見の有無を必ず聞く。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要時個人面談を行ったり、月1回全体カンファレンスを開き職員の意見を聞いているが不満や苦情は言い難い部分はあるが把握しきれていない部分はあるが出来るだけ個人対応している。	日々の流れの中で気付きや意見は真摯に受け止め運営者や職員に伝え更なる意見を得ている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	臨機応変に対応出来ていて協力的である。	どちらのユニットにも対応出来る職員がいる。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員も定着しており顔写真も貼ってある。ユニット間職員の行き来ありどちらも馴染みの顔となっている。	管理者は常時フォローにあたるよう体制を整えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加し資料やレポートを皆で共有している。	全職員が外部研修を受けられるよう取り組んでいる。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会、相互評価などに参加し交流の機会を設けている。	今後も他のグループホームの交流を図り向上に繋げる。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	業務より離れ30分間の昼休みを設けている。	行事(流しソーマン・夏祭り・敬老会・クリスマス会等)には利用者の方と職員も一緒に楽しめる工夫をしている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、資格を活かしてはつらつと働ける様に常に話をしている。	その人や仕事を認め、心を注ぎながら共に取り組んでいる。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で生活状態、心身の状態を把握し、本人の思いに引き合い信頼関係が築ける様に努めている。	環境に慣れるまでは人員にも気配りをし、スムーズに流れる方向づけをしている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	今までの家族の苦労やサービスの内容などをゆっくり聞き家族が何を求めているかを知る努力をしている。	入居前に家族の意向をお聞きし家族との信頼関係も築けるよう努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容により対応が難しい時は包括支援センターや地域のケアマネージャー等と連携を取りサービスに繋げている。		種々のサービスに取り組みたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	すぐにサービスを利用する方が多くその際には家族やそれまでに関わっていた関係者に頻繁に来て頂くなどして不安感の軽減に努めている。	○	今後、入苑前に苑生活を体験して頂ける様に取り組みたいです。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活のあらゆる場面で出来る事は一緒にしている。お互いが協働しながら生活できる様に場面作りを心掛けている。		利用者と職員がお互い学びあい支えあいながら関わりをもっていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族には本人の悩みや現在の健康状態を面会時や毎月の手紙にてお知らせしており何かあれば家族にも協力をお願いする事もある。		体調不良時は付添して下さる方や食事介助に来苑され、生活ぶりや体調把握をしてくださる家族もいる。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族、本人の思いや状況を見極めながら外出や外泊で家族と一緒に過ごす事を勧めている。両者の思いが結びつくような働きかけを心掛けている。		直接声を聞いて頂ける電話のサービスもして行きたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院を今なお利用しており友人宅へ遊びに行ったりと一人一人の馴染みの支援をしている。		要求があれば出来る限り支援していく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日のお茶や食事の時間は職員も一緒に多くの会話を持つようにしたり気の合う利用者同士で過ごせる場面作りをするなど職員が調整役となっている。		個別支援も大事にしつつ、利用者同士の関わりあいを見守っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退苑された方より相談を受けた場合は出来る限り相談にのるよう努めている。		退苑しても家族に連絡しフォローアップに努めている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別ケアを大切に支援している。		利用者に無理強いほしないよう気をつけている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人自身の話や家族、知人などの訪問時に話を聞いてどんな生活をしてきたのか把握に努める。		面会時などさりげなく情報を得、参加している。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人が安心して楽しく過ごせる様、個別ケアに努めている。		傾聴に努め、その会話からの判断も状況把握としている状況である。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランは本人や家族の意向や希望を聞き全職員で話し合いをしながらケアプラン作成に活かしている。		可能であれば本人、家族もミーティングに参加して頂けるよう促していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを行い状況に応じて見直しを行っている。状況の変化が見られた時は現状に即した計画を作成するようにしている。		変化に対応できる様に取り組んでいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分、排泄等身体的状況及び日々の様子、言葉遣い等を記録しており申し送り勤務開始前に記録を読む事とし情報を共有している。記録をもとにケアプランの見直しを行っている。		申し送りの前に記録に目を通し、内容を把握した上で、申し送りに取り組んでいる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院など柔軟に対応している。		利用者のその日の体調や家族が付き添い出来ない時はスタッフが通院・付き添いを行っている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	安心して背活を続けられるよう、消防、行政区長、民生児童委員と意見交換する機会を設けている。また、ボランティアに手伝って頂いた。		2ヶ月に1回運営推進会議を開き、近所の方や民生員の方と話し合いの場を設けている。また、行事の際にはボランティアの方に手伝って頂いている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	社会福祉協議会の会食会に参加したり、行事などではボランティアに手伝って頂いた。		会食会に参加し、情報交換の場を設けている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	推進会議に毎回出席して頂いている。		推進会議に参加して頂き、情報を提供し、意見を頂いている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員がホームのかかりつけ医に変更するのではなく、利用前からのかかりつけ医に通院できる様、苑と家族が連携しながら対応している。24時間適切な医療が受けられる体制となっている。		苑の提携医とは24時間の医療連携を結んでおり、緊急時には昼夜問わず連絡を取ることができる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		<p>認知症専門医とは相談できる関係が築かれており受診している方もいる。家族にも専門医に受診するよう勧めている。</p> <p>今後も専門医と関係を密に取り、相談できるようにする。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		<p>医療連携で毎週ほぼ同じ看護師が来苑し健康管理や相談にのってくれている。</p> <p>毎週ほぼ同じ看護師が来苑し対応する事で利用者の事を把握し対応して下さっている。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		<p>病院側と早目の話し合いを持ち事業所内での対応可能な段階でなるべく早く退院できる様にアプローチしている。</p> <p>契約では入院14日を超えると退苑と謳っているため、その上での治療方針をお願いしたり、入退苑をあわせている。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>本人、家族の意向を聞きターミナルについての意思確認書を取り交わしている。</p> <p>意思確認書にてターミナルを希望された方が実際に何名か苑でのターミナルを経験している。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>かかりつけ医や管理者と十分相談し、安心して過ごせる様支援しています。意見確認所にてご家族にターミナルの希望を確認している。</p> <p>家族の全面的な協力なくては介護面だけでなく精神面においてスタッフに負担多すぎると思い考慮していきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>サマリー等活用し情報交換に努めている。</p> <p>面会をし、勇気づけている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>人前で恥ずかしい思いをしないように、職員は下着の汚れや排泄の誘導の声掛けに気をつけて対応している。</p>		人前で恥ずかしい思いをしないように声掛け誘導に気をつけている。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>コミュニケーションを常に取り意思の疎通を図っている。</p>		個別支援を大切にし、本人の思いの内を言いあらわせるよう傾聴を心掛け、より良い関係も築けるよう支援していきたい。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>利用者の生活に合わせ、朝起きられない方に食事時間をずらして提供したり本人の意思や状態に配慮しながら対応している。</p>		個人の生活ペースに合わせてケアしている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>本人馴染みの美容院で希望に合わせてカットや毛染めをしてもらえる様、連携を取っている。</p>		利用者の希望があるとスタッフが付き添いを行っている。
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>日常の中でも利用者の好みを重視し献立に取り入れていきたい。</p>		一人ひとりに合わせて食べ物の大きさ、形状を工夫している。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>煙草については職員が預かり、他の利用者の迷惑にならない場所で吸えるよう配慮している。</p>		喫煙の際にはスタッフに声掛けして頂き、スタッフが付いている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用しトイレ誘導をすることでトイレでの排泄を促している。		一人ひとりの排泄パターンを把握することで、なるべく汚染する事無くトイレにて排泄を行っている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員側の都合の時間帯で入浴する事がある。		希望・要望があればいつでも入浴出来る体制を作りたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整える様心がけている。昼寝も取り入れている。		その人の習慣や体調を大事にしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を活かした日課となる役割や楽しみ事などで過ごしている。		洗濯物整頓、清掃、盛り付けなど一人ひとりの得意な事に合わせてスタッフと行っている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事業所管理で行っているが買物のときは自分で支払って頂けるよう手渡している。なかにはお小遣いを所持している人もいます。		お小遣いを所持している方はドライブなどの際に自分で選んで買い物を行っている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日などには散歩、ドライブ、買い物などしている。外出が難しい方は車イスでの苑の周囲を散歩し外の風を感じて頂いている。		演者様も外出を楽しみにしている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族との外食、外泊、墓参り、自宅へ行ってみたい等十分に支援している。		家族と一緒に旅行も支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて支援している。		家族への年賀状は喜ばれているのでこれからも続けていく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも自由に訪れて頂けるように来やすい雰囲気作りに心掛けている。		実際に毎日面会にいらっしゃるご家族もいる。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的内容を理解しておりケアに当たっている。		事前にご家族の方から同意書をいただいている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りの徹底を図り止めるのではなく声を掛けたり一緒に付いて行く等、自由な暮らしを支援しているが玄関先が下り坂になっているので車イスの利用者の転倒、転落防止のため車イスの幅より狭い位置でのストッパーを使用している。		家族の方へ事前に説明しており現在の対応の理解を得ている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	みんなが集まるフロアに常時職員が居るようにして見守りを重視し安全に配慮している。また自室で過ごす方には時折声掛けを行っている。		誰がどこにいるかを把握するように心掛けている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	異食等みられた時はその人に対し厳重な見守りをする。一部の物品預かりを行っている方がいる。		使用時は見守りを徹底し、安全を十分に配慮していく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の現在の状況に応じた対応をしている。誤嚥の危険のある方にはトロミを付けたり、服薬等も工夫している。ひやりはつとを記録し共有を図っている。	○	緊急時の対応など学習の機会を作っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成いつでも閲覧できる様にしている。研修会や訓練は不足している。	○	緊急時の対応や応急手当、初期手当の研修会を専門的な機関を招いて行いたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	概ね2ヶ月に1回のペースで避難訓練実施している。近所の方々にも参加して頂き、消防署職員の指導を受けている。		災害時の職員間の連絡網を作成し、連絡出来る体制を作っている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	現状から考えられるリスクについて、具体的に面会時や手紙等でお知らせしてリスクを怖がらず危険に十分配慮して前向きにチャレンジしている。		歩行不安定・転倒の危険のある人はスタッフの見守り、介助を徹底している。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルサインチェックを行い、食欲や顔色にも注意を払い、変化などに気づいた時、受診が必要な場合は速やかに対応している。		異変には早期対応で大事に至らぬよう取り組みたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルしており職員が内容を理解できる様にしている。薬剤師が定期的に訪問し指導をして頂いている。		一人ひとりの薬の効能・副作用を把握出来る様に努めている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材の工夫や体を動かす事によって、自然排便が出来るように心掛けている。		便秘の方には牛乳や食物繊維の入った物を提供している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い状況に応じ見守り、介助を行っている。義歯は就寝時前に洗浄剤に入れておく。		毎食後の歯磨きを徹底している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況をチェック表に記入し状況を把握している。		好きな時に好きなように飲めるよう工夫をし、水分摂取に取り組みたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者の家族を同意をもらい職員共インフルエンザの予防接種を受けている。また、感染防止の観点からペーパータオルを使用し感染防止に努めている。手洗いのマニュアルは手洗いの場所に掲示してある。		外出の際や、食前には必ずうがい・手洗いを行っている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきんは毎日漂白剤で除菌している。冷蔵庫内の清掃・点検を行い食材の点検を頻繁に行っている。		食材の在庫は極力控え、こまめな発注を行い新鮮な食材を使用している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にはベンチやテーブルを置き近所の方と交流できるスペースがある。		玄関に入られた方には明るい声掛けを心掛けている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた装飾を心掛け利用者と一緒にしている。五感や生活館を意識的に取り入れる様工夫している。		季節感を取り入れた装飾を取り入れ、利用者と一緒に行うことにより四季を感じられている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やフロアの一角のホッとできる空間があり、仲の良い利用者同士でくつろげる空間を作っている。		食道・フロアスペースに畳やソファがあり、仲間同士でお喋り等楽しんでいます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の生活スタイルに合わせて使い慣れた物は家族に協力をお願いし、安心して生活が出来るように支援している。		家で使用していたタンスや小物を持ち込んで使用している方がいます。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計と利用者の様子を見ながら調整している。トイレは汚れたらすぐに掃除を行い、換気扇と消臭剤で悪臭が出ないように工夫をしている。		時々、換気を行いながら必要に応じて冷暖房を使用している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に応じて手摺りや浴室トイレ廊下などの住宅環境が適切であるかどうかを見直し安全確保に努めている。	○	利用者のレベルに応じて対応していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	掲示物などはただ掲示するのではなく本人の状態を把握し、目線の高さに表示するようにしている。		その人の出来ることを見極め、衣類の着脱、入浴の洗身等、出来る事はしてもらい、依存しがちな人には気持ちよく自発的にやってもらえるような言葉掛けをする。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先のプランターに花を植えたり、畑に野菜を植えたりし、利用者が楽しみながら活動できる様な環境作りに努めている。		畑で収穫した野菜を食事に取り込み楽しみとなっています。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 近隣住民との交流が持てている。
- 毎日面会に来て下さる家族がおり利用者、職員と一緒にのおやつや夕食を取りコミュニケーションが図れている。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム やすらぎ苑古川
(ユニット名)	すずらん
所在地 (県・市町村名)	宮城県大崎市古川小野字一ノ坪43-101
記入者名 (管理者)	曾根 初恵
記入日	平成 20年 10月 25日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念があり、地域密着型サービスの意義を全員で理解し取り組んでいる。	個々が地域で暮らしやすくをモットーにしていきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送りの時、職員全員が再確認できるように唱和をしている。	理念の共有を図り意識しながら日頃の支援に繋げていく。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念の浸透はこれからの課題です。日々の生活を見てもらうことで慈しみを知って頂きたい。	○ やすらぎ苑通信や運営推進会議を通し伝えて浸透できる様取り組みたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の方々とおすそ分けしたりする間柄が作られており、事業所にお茶飲みに来て下さったり、回覧板も回ってきており近隣に住まわれる人たちと触れ合う機会が多い。	近隣の子供たちが遊びに来て、車椅子体験や利用者さんとの触れ合いがある。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域活動には積極的に参加しており自主防災訓練、町内清掃、ふれあい会食会また、当苑の行事に参加し交流を図っている。	今後も継続し地域の活動に参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実習生の受け入れを積極的に行い人材育成をしている。		これからは様々な分野のボランティアを受け入れていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価に取り組み要改善のところは具体案の検討を行いサービスの向上に努めている。		利用者を自分に置き換え考察することが一番わかり易いのではという考えからグループホームのあり方を施行している。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は着実に稼働し、平成20年度は3回開催しており、皆さんの意見を反映し苑内行事等への地区の議員さんの方にも参加していただき苑の内外の現状を見て頂く工夫をしている。		当苑からの要望等を行政区長さんを通して市の方へ伝えて頂き道路整備(砂利敷き)をして頂いた。今回は街灯設置を来年度に向けてお願いをしています。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に安心介護相談員の方が来苑されている。また市役所に行った際、窓口や電話などで事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えているが更に連携が取れるようにしたい。		運営推進会議も意義のあるものにして行くよう頑張りたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修に参加し理解を深めるよう努力をしている。		これからも研修会に参加して勉強していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し学習している。当苑においては虐待はない。		虐待はあってはならないこと。今後も研修会等に参加して学習する機会を設けていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居にあたっては十分な説明をしている。利用者の立場に立って将来のことを含め、疑問などを引き出しそれに対しての説明をしている。	料金と入退苑の契約については十分な話し合いの上、入苑いただいている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、運営推進会議と苦情の申し立てについておりにふれ説明している。入苑契約の時にご意見、不満、苦情は有り難く頂戴する旨伝えている。また常に苦情など話せる雰囲気作りを心掛けている。意見箱も設置している。	現在のところ利用者からの苦情はみられない。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや、健康状態を個別に記入し送付している。その際、個人の金銭出納帳も出しており、一目でわかるようになっており、家族による定期的な確認をして頂いている。	通信誌共に個々の暮らしぶりを報告している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族がホームに来苑した時や行事の参加の度に、会話をしながら意見を引き出す様に心がけている。利用者の生活ぶりの疑問や設備面での要求には、出来ることから速やかに対応している。	面会時や小口現金預かりのとき等は意見の有無を必ず聞く様心掛けている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要時個人面談を行ったり月1回全体カンファレンスを開き職員の意見を聞いているが、不満や苦情は言い難い部分でもあり把握しきれていない可能性がある。	○ 今後も個人面談等を行い、改善出来る箇所はリーダーに伝え小さな事でも改善していきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員は臨機応変に対応でき、協力的である。	職員がどちらのユニットにも対応できている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員も定着しており、顔写真を貼っている。ユニット間・職員・利用者の行き来あり、どちらも馴染みの顔となっている。	特に問題なく経過している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加し、資料やレポートを皆で回覧し情報を共有している。	全職員が外部研修を受けられるように取り組んでいきたい。それを基に内部研修を行う。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会・相互評価などに参加し、交流の機会を設けている。	研修会等に参加する事によってサービスの向上に繋げていく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常や面談時に職員のストレスや悩みを把握するように努めている。職員同士の人間関係を把握したりする様に努めている。また、業務より離れ、30分間の昼休みを設けている。	休憩時間はお茶をしながら情報交換をしストレス軽減している。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資取得に向けた支援を行い、資格を生かしてはつらつと働ける様に努めている。	その人の仕事を認め、共に働く仲間として仕事に取り組んでいきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で生活状態・心身の状態を把握しご本人の思いに向き合い、信頼関係が築けるよう努めている。一度苑に来て頂いて見学をして頂き雰囲気を見て頂けるよう努めている。	環境に慣れるまでは人員にも気配りをしてスムーズに流れる様方向づけをしている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	今までの家族の苦労や、サービスの内容など話をゆっくり聞き家族が何を求めているのかを知る努力をしている。	入苑にあたり移送に窮したご家族には引っ越しの手伝い、迎えも可能として安心感を得る事ができた。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容などにより対応が難しい時は包括支援センターや地域のケアマネージャーと連携をとりサービスに繋げている。		勉強の為にも種々のサービスに取り組んでいきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	すぐサービスを利用する方が多いのが実情ですが、入苑前に可能な方は苑の日常の流れを見学して頂いている。一緒にレクリエーションをしたり、お茶を飲んだり食事等も頂き雰囲気を体験できる場を提供している。		今後も継続していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活のあらゆる場面で出来る事は一緒にしている。その中で職員は教えられることも沢山ありお互いが協働しながら生活できる様に場面作りを心掛けている。		掃除や料理、後片付けの出来る人には協力を頂いている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族には本人の悩みや現在の健康状態を面会時や毎期の手紙にて報告しており何かあれば家族にも協力をお願いするようにしている。		体調不良時は付添して下さる方や食事介助に来苑され生活ぶりや体調把握をして下さる方がいる。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	当苑に入居したことで本人と家族とのコミュニケーションが少しできたことで入居前より関係が円満になったケースもある。		直接声を聞いて頂ける電話のサービスもしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達や近所の方の面会や手紙のやり取り、外出の機会を設けている。		面会の時間を決めておらず、いつでも気軽に来て頂けるような体制を取っている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日のお茶や食事の時間は職員も一緒に多くの会話を持つようにしており、利用者一人一人を把握出来ており、その中で利用者同士が楽しく生活出来る様努めている。		トラブル、口喧嘩にならないよう見極め、調整を図っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	電話を使用しての連絡や以前使用されていた物を頂いたり等良い関係が保たれている		病院等へ入院した場合、話を聞き家族の方の不安解消に努めている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話から利用者個人の思いや希望を引き出しそれに合わせ支援している。		利用者に無理強いはいしないよう気をつけている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人自身の話や家族、知人などの訪問時に話を聞いてこれまでの生活歴を把握出来る様に努めている。		家族、知人、ケアマネージャ等から情報を得る。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護記録を付け一日の利用者の把握を行えるよう努めている。		一人ひとりが安心して楽しく過ごせるよう個別のケアに努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランは本人や家族の意向や希望を聞き職員全員で話し合いながらケアプラン作成に活かしている。		日々、新しい発見に努めている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にケアプランの見直しを行っている。状況の変化が見られた時は現状に即した計画を作成するようにしているが、修正が遅れることがある。		介護計画の定期的な見直しは行われているが、これからも家族にも積極性を持ってもらう様話し合いをしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分、排泄等、身体的状況及び日々の様子、言葉等を記録している。その記録をもとにケアプランの見直しを行い話し合いの場を持っている。		身体面では実践をたやすいが精神面に於いてはレベルの差がありすぎ対応に苦慮している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて通院など柔軟に対応している。		利用者のその日の体調や家族が付き添い出来ない時はスタッフが通院・付き添いを行っている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	安心して生活を続けられるよう消防、区長、民生児童委員と意見交換する機会を設けている。またボランティアの呼びかけも行っている。		これからは歌、料理、お菓子作り等、ボランティアの人たちを受け入れたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	社会福祉協議会の会食会に参加したり行事などではボランティアに手伝って頂いた。		生活保護受給者が多いために更なる利用範囲等を勉強していかなければならない。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの方には運営推進会議に毎回出席して頂いている。		最近では生活保護の方の入居が増えており包括の方や市役所の担当の方との連絡を頻繁に取っている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員がホームのかかりつけのクリニックに変更するのではない。利用前からの医師に通院できる様に苑と家族が連携しながら対応している。24時間適切な医療が受けられる体制となっている。		往診時には個々の利用者の様子を事細かに報告し、認知症の方にもとてもよく理解、協力戴いている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医と相談できる関係は築かれており受診している方もいる。家族にも専門医に受診するよう勧めている。		往診時には個々の利用者の様子を事細かに報告し、処置をしていただいている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携で毎週水曜日に看護師が来苑し、健康管理や相談に乗って頂いている。		緊急時や重度化は勿論のこと24時間対応できる。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院側や家族との早目の話し合いを持ち苑内で対応可能な段階でなるべく対応できる様アプローチをしている。		契約では入院14日を超えると退苑と謳っているため、入退苑をあわせている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人、家族の意向を聞きターミナルについての意思確認書を取り交わしている。ターミナルも経験しており関係者、医師との連携もスムーズに運ぶことができ全員で方針を共有しケアに当たる事が出来た		重度化、終末期(看取り)を考え勉強しながら取り組んでいる。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルを受け入れる心構えは全職員が出来ている。医師、職員が連携を取り安心して最期を迎えられるよう今後も研修を重ね対応していく。		かかりつけの医者や管理者に十分相談し、安心して過ごせるよう支援していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	サマリー等を活用し、情報交換に努めている。		長期に時間経過しないうちに面会等をして勇気づけている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人前で恥ずかしい思いをしないように声掛けに気をつけて対応しているが、難聴等の利用者には大きな声での支援、対応になっている。	○ 声のトーンには十分配慮していく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	親しみを持ち過ごしている。日常会話の中に「あのさ～」と依頼ごとなどができ、心の内を理解出来ていく。	個別支援を大事にし本人の思いの内を言いあらわせる様、傾聴を心掛けより良い関係を築けるよう支援していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活に合わせた支援をしている。本人の意思や状態に配慮しながら対応をしている。	個々の生活リズム、体調に合わせ本人の意思を優先に支援している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	職員の中で理容、美容の資格がある方がいるので利用者の希望に沿って髪型決めカット、毛染め等も行っている。	これからも、いつもおしゃれを忘れずに日々生活できるよう支援していききたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	片付けを利用者と共に行い職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事ができる雰囲気作りを大切にしている。	利用者の方々と一緒に食事の片づけ、盛り付けを楽しんでやっていけるよう取り組んでいきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	煙草については場所、時間を決め提供している。危なくない様、煙草とライターは職員預かりにて対応している。	喫煙の際にはスタッフに声掛けして頂きスタッフが付いている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、トイレ誘導をすることでトイレでの排泄を促している。		さりげない声掛け夜勤時の声掛けで失敗の軽減に努めていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員側の都合の時間帯入浴する事がある。	○	利用者の希望時間帯に入浴出来る対応をしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し生活リズムを整える様心がけている。昼寝も取り入れる様勧めている。		本人の習慣や体調を大事にしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の得意が発揮出来る様にいろんな場面を作り支援している。		洗濯物整理、農作業、踊りなど職員と共にやり楽しませている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所管理で行っているが買物の時は自分で支払って頂ける様にと手渡ししている。1名の利用者は自分で金銭管理を行っている。		一ヶ月の小遣い内での買い物を見守り支援していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日光浴や散歩、ドライブ、買い物、ピクニックなど戸外での楽しみを提供している。また、外出が難しい方にはウッドデッキでの日光浴などで外の風を感じて頂ける様にしている。		重度化はしているが無理のない支援に心掛けている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間計画で温泉や海辺の方への日帰り旅行を計画実行している。	○	苑内行事への家族の参加は増えてきているが日帰り旅行は日程の調整が難しく家族会総会で年間行事の告知をして参加者を増やしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せる様支援している。		家族への年賀状は喜ばれるのでこれからも続けていく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	自室やフロアで、お茶を飲みながらゆっくり過ごせる様配慮している。食事時は来客と一緒に取って頂くこともある。		実際に毎日面会にいらっしゃる方もいる。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的内容を職員は理解しているが自傷行為のある利用者には家族の了解を得て手袋を使用している。		必要に応じて家族への説明、確認、了解を得たうえでのケアに当たっている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間、また、未使用時の入浴室への施錠はしている。日中は自由な暮らしを支援している。		日中は職員見守りとしての役目を設け事故防止に取り組んでいる。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	見守りを重視し日中自室で過ごす利用者には時折声掛けを行っている。		入苑一ヶ月はさりげなく見守りに徹して、安全に配慮していく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に応じて管理が必要な物と自己管理で良い物とに分けている。		異色等みられた時は、その人に対して特に注意をしていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の状況に応じた対応をしている。嚥下障害のある方にはミキサー食やトロミをつけたり、服薬等も工夫している。ひやりはつとを記録し共有認識を図りカンファレンス時に報告会、検討会を行い再発防止に努めている。		防火・防災等を再確認し、訓練も実施している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成して全職員が確認しているが研修会や訓練は不足している。また、夜間の連絡方法も確立されている。	○	緊急時の対応や応急手当、初期手当の研修会を専門的な機関を招いて行いたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	概ね2ヶ月に1回のペースで避難訓練を実施している。近所の方々にも参加して頂き、消防署の職員の指導も受けている。		運営推進会議で構成員の方々からのアドバイスも受けている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	現実を報告し家族の理解を得てその人らしい生活が出来る様工夫している。		歩行時危険性のある利用者はシルバーカーを利用している。また無理のない程度に歩行を促している。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は利用者の普段の体調を把握しており異変には早期発見に努めている。受診が必要な場合は速やかに対応している。		異変には早期対応で大事に至らぬように取り組みたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルし内容把握に努めている。薬の担当者がいて、薬剤師からの注意点等は確実に職員に申し送りし記録に残す。		飲み合わせや副作用についても医師や薬剤師に確認を取るように心掛けている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材の工夫や体を動かす事によって自然排便が出来るように心掛けているが、3日便通がない場合にはやむを得ず下剤等で対応をしている。		できるだけ薬に頼らずに、お茶・ヨーグルト・体を動かす事などの努力をしている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケアを促している。見守り、介助、声掛けを行っている。就寝前は義歯の洗浄し支援している。訪問歯科による歯科検診も実施している。		毎食後の歯磨きで口臭も改善され口腔ケアを今後も実施していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況をチェック表に記入し状況を把握している。また、個々に応じた一日の水分補給の他に多めに摂って頂いたり工夫している。	○	1日のカロリー計算30品目等の栄養バランスを考えた食事の提供を心掛けていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者の家族に同意を頂き職員もインフルエンザの予防接種を受けている。感染防止の観点からペーパータオルを使用し感染防止に努めている。手洗いのマニュアルは手洗いの場所に掲示している。		手袋の装着、手洗いの徹底、入浴の順番
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や布きんは毎日除菌、漂白をしている。冷蔵庫内の清掃、点検を行い食材の点検を頻繁に行っている。		食材の在庫は極力控え、新鮮な食材を使用している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気玄関になるように花を飾ったりプランターを置いたりして季節感を出す様に工夫している。		玄関に入ったら明るい声掛けを励行、心掛けています。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた装飾を心掛け利用者と一緒にしている。五感や生活感を意識的に取り入れる工夫をしている。		庭の花を飾ったり、散歩途中の季節の草花などを飾る。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やフロアの一角にホッとできる空間があり、中の良い利用者同士でくつろげる空間を作っている。		自室にこもる人も少なくなっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の生活スタイルに合わせて使い慣れた物は家族に協力して頂き居室に運んで頂いている。安心して生活が出来る様支援している。	○	話だけで終わるケースもあるが更なる協力を得ていかなければならないと感じています。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計と利用者の様子を見ながら調整している。掃除の際には換気をし風の通りを利用し空気の入替えを行う。トイレの掃除や汚物の処理にも心配りを心掛けている。		オムツは新聞紙に包み使用後は即ふた付き容器に入れている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に応じて、苑内の住宅環境が適切であるかどうかを見直し安全確認に努めている。	○	利用者のレベルに合わせて随時対応していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その人の出来る事を見極め衣類の着脱、入浴の洗身等出来る事はしてもらおう。依存しがちな方には自発的にしてもらえよう声掛けの工夫を心掛けている。また表示等は目線の高さに設定する工夫に心がけている。		居室の表札設置、居室の目印等工夫している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先のプランターに花を植えたり、畑に野菜を植えたりして利用者が日常的に楽しみながら活動できる様な環境づくりに心掛けている。		玄関先のベンチで日なたぼっこや夕涼みを楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 地域（地区、近所の方）等との交流があり、常日頃良い関係を築けている。
- 家族の面会時、利用者、職員との談話を楽しめている。ゆっくりと過ごせる時間と場所がある。
- 平日の昼間を利用しての管理者と職員（全員）の全体会議があり十分な話し合いが行われており、時間に無理なく行われている。